

<進行台本（ベーシックver.）>

海でウェビングマップワークショップ

※この進行台本は日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で、海でマインドマップ教育プロジェクト実行委員会により作成されています。
是非、必要に応じてアレンジしてご活用してください。
※グレー部分は時間短縮する際に優先的に削ることが出来ます。



No.	内容	時間 (分)	詳細	備考
1	挨拶と講師陣の紹介	1	各講師挨拶	
2	ワークショップの実施背景の説明	1	日本財団「海と日本プロジェクト」についてご説明をお願いします。 「今回のワークショップは、もともと日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で行っていたワークショップをもとに開催させていただきます。」	
3	講師がウェビングマップを使って自己紹介 ウェビングマップがどういふものかを説明する この後の流れの説明をする	5	・予め作ってある自己紹介ウェビングマップを見せて、ウェビングマップがどういふものかを知ってもらう。 最後に、この自己紹介のように子どもに発表してもらう事を伝える。	自己紹介のウェビングマップは話し手の講師に慣れてもらうことも目的としています。 また、あくまでイベントのメインはウェビングマップではなく海の危機を知ってもらうことにあるので、ウェビングマップの解説は最低限に抑えるようにしています。
4	海をテーマにウェビングマップを書いてみる	12	・最初に全体で海や魚にクイズを出したり、話をしたりして、海についての導入を行う。 ※画像や映像を見せて、興味を引き出す。 ・その後、ウェビングマップを書き始める。 会場にホワイトボードや模造紙などを用意しておき、最初に講師が会場全体に向けて質問して誰かに答えてもらい、目の前で書いて見せることをオススメいたします。そうすると、その後グループや個々に書き進めやすいです。（「生き物」の枝でやると答えが出てきやすいです）	・海への導入の内容として、私達は魚や刺身、漁の画像を見せたりしていました。（4つの枝にそった内容だと最初に子どもが枝を伸ばしやすと思います。「困っていること」には海洋問題について書いてもらうことを想定しているため、この導入部分では描いてなくてもOKです。） ・前半、後半で使うウェビングマップはこれ一つなので、「まだ書きたい」ぐらいの速度などで切り上げています。
5	海洋ごみ、地球温暖化、乱獲がどのように海や魚に影響を考えているかを子供たちに知ってもらう	10	・おそらく練習の段階では「困っていること」の枝はあまり伸びていないと思うので、「ここで海の抱える環境問題を体験も踏まえて学んでいきましょう」という振り出しを進めていく。 ・8コマ漫画(4体験キット)を用いて海の問題について知ってもらう。 ・8コマ漫画(海洋ごみ/地球温暖化/海洋資源の持続可能性)を解説終了後に配布。	海洋ごみ、地球温暖化、海洋資源の持続可能性から1〜3テーマを選び解説する。 選択基準として以下を意識しておりました。 ・イベントの時間の長短 ・扱うテーマの数の増減 ・子ども達の学年、学力 ・海洋ごみ/地球温暖化<海洋資源の持続可能性の順で難易度が上がります。 低学年：特に海洋資源の持続可能性のテーマは工夫が必要です。 高学年：すでに学校で習っているかどうかで全テーマを扱う場合もあります。
6	ウェビングマップを子供たちに書いてもらう。	7	No.4で書いた海のウェビングマップをさらに広げてもらう。 「困っていること」の枝があるのでそこを中心に書いてもらえらるるよう。	ここではNo.5で行った解説で知ったことをもとに枝を伸ばして欲しいですが、もちろんそれ以外の部分を書いてもらうのも構いません。
7	休憩	10		※発表を行う場合は、この休憩時間にそれぞれのウェビングマップを確認して、拳手制で発表者が決まらなかった時のためにどの子どもに発表してもらうかを想定しておきます。
8	書いたウェビングマップを使って、今日知った海の課題からそのために自分が出来ることまでを発表してもらう	15	何人かの子どもに、今日知ったウェビングマップを発表してもらう。(人数は時間との兼ね合いで決定)	聞き手の子どもたちが飽きてしまう可能性があるため、マップ全体ではなく、4つの枝のうち1つか2つを発表してもらうようにしていました。講師が適宜質問しながら誘導することで、ウェビングマップに沿った発表がしやすくなります。 発表する内容はこちらが指定しても、子どもに任せると良いですが、No.5で学んだ内容を少なくとも1人には発表してもらえらるるようになっています。
9	海のために自分ができることを考えて書いてもらう	7	これから自分が海のために出来ることを行案に書いて一枚の模造紙にそれぞれ貼ってもらう。	大抵一歩に書ける子どももいれば、書けない子どももいます。 嬉しいようでしたら、講師が一緒に考えらるることをオススメします。 また内容について特に正確な正解等はないですが、明らかに極端な意見や自分だけでは解決できない対策が出た場合は他に出来ることを考えてもらいます。 (例)人間がいなくなれば海はごみは捨てられない等の極端な意見や、海を警察が見張ればいいなど自分ではできない意見など
10	今日のまとめ	10	・本日のまとめを行う。 ・大人が実際に行っている取り組みについて解説。(可能なら)	私達の場合は四十八漁場で実際に行っている取り組みとして、 ・未利用魚の活用(未利用魚が入荷できるような流通の構築、お客様へ美味しく調理してご提供)、 ・海へタコ等のゴミ捨てをしないように、漁師に対する意識醸成、 ・プラスチックストローの使用禁止(ストローが必要な場合は紙ストローをご提供) 等について詳しく説明を行いました。
11	集合写真〜終了証受け渡し	3	・集合写真撮影、終了証作って渡すと良いです。	
12	合計時間	81		